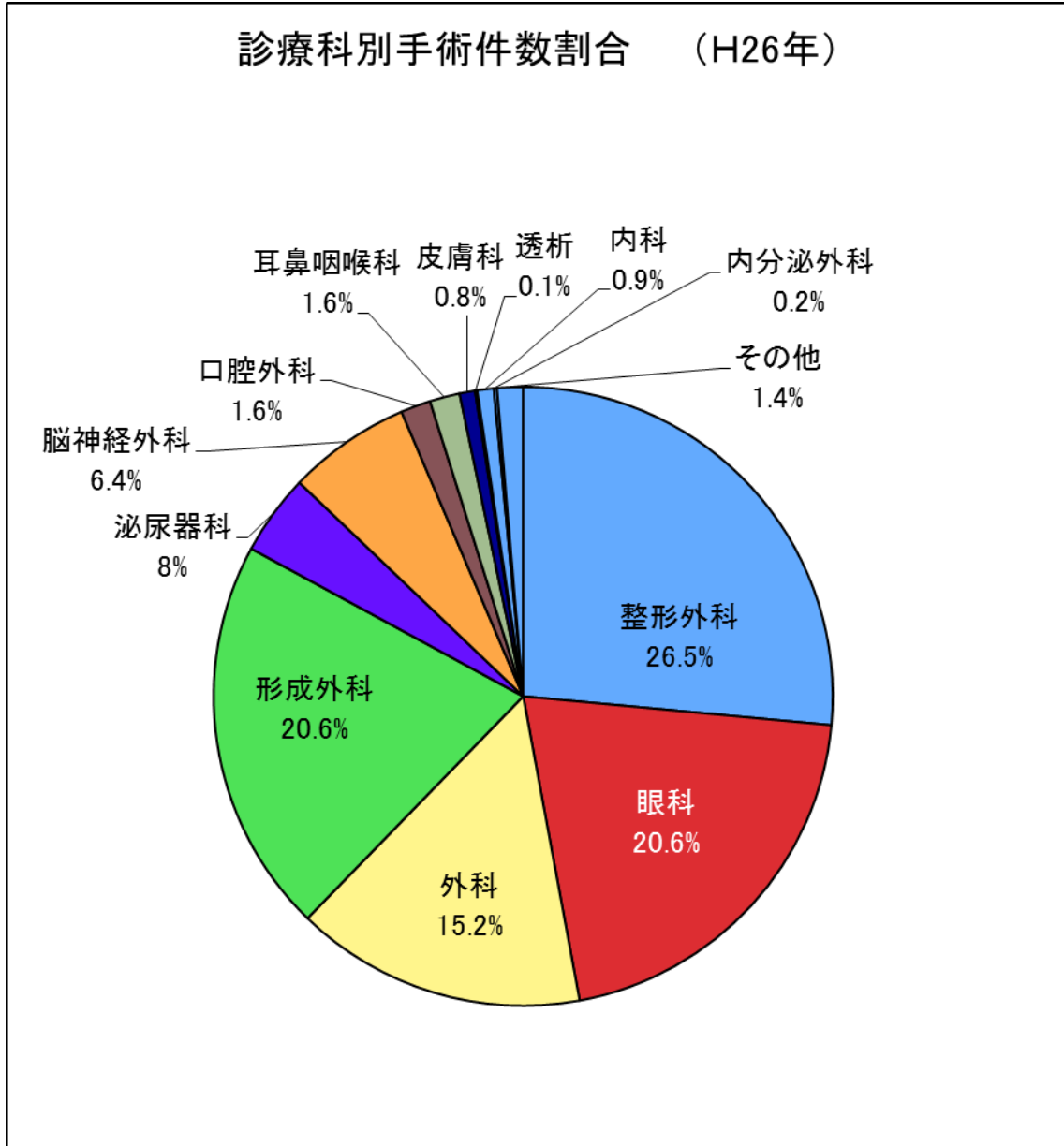
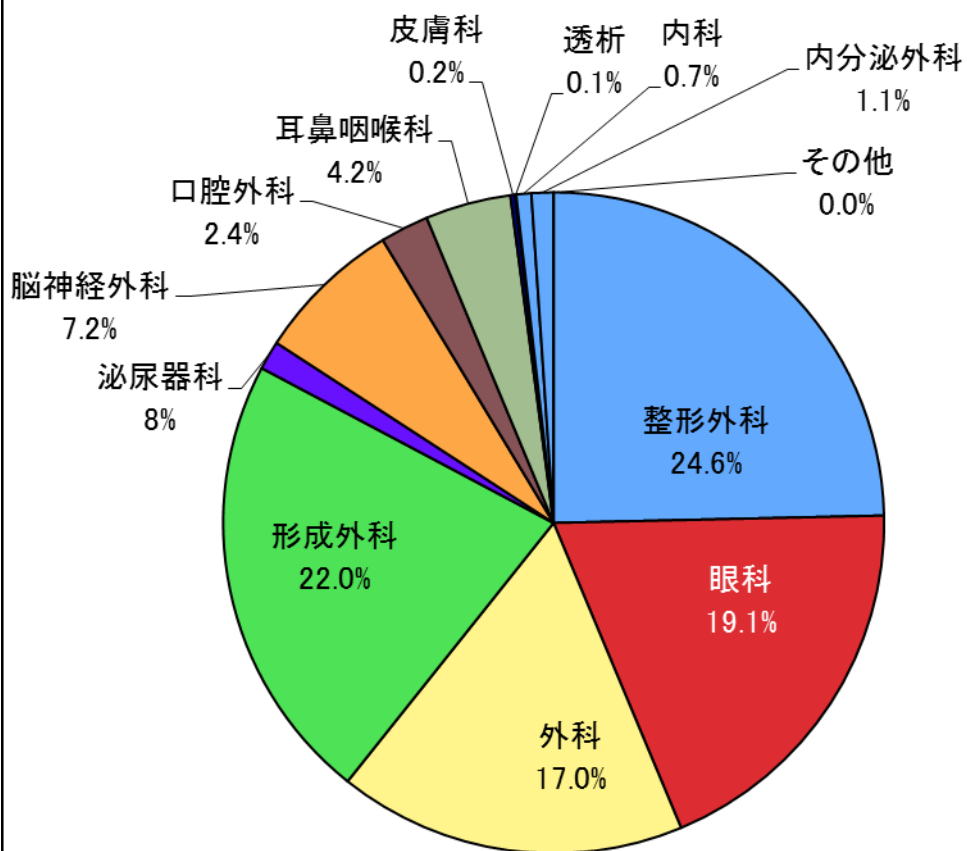


II 診療実績



診療科別手術件数割合 (H27年)



1. 内科

特任副院長・循環器科部長 阿部 正宏

市中病院の役割は一般疾患を滞りなく受け入れ、効率よく診断し治療するということだと思います。そのためには病床数の確保、ハードである診断・治療機器の充実はもちろんですが、ハードから得られた臨床情報を患者さんにフィードバックできるソフト、すなわち医師個人のスキルを高め維持していくことが必須です。日々アップデートされる医学情報の処理には個人では限界があり、各々が得た情報を医師間で共有することが重要です。一般疾患とはいえ症状は多彩であり、原疾患は内科から外科まで多岐にわたることも多く、診療科間の交流が少ないと時に診断の遅れにつながることもありえます。当院は各診療科医師が一つの医局に集まるため、自然な形で診療科を超えてディスカッションできており、良い環境であると自負しています。

疾病・術式・検査名

透析センター	H26	H27
新規血液透析導入患者数	19名	13名
糖尿病性腎症	12名	8名
慢性糸球体腎炎	2名	1名
腎硬化症	1名	1名
MPO-ANCA 関連腎炎	1名	1名
多発性嚢胞腎		1名
不明		1名
急性血液浄化療法施行患者数		3名
痛風腎	1名	
ネフローゼ症候群	1名	
悪性高血圧	1名	
転入血液透析患者数	1名	5名
転出血液透析患者数		4名
内シャント関連手術件数	26件	15件

自己血管 AVF 新規作成	17 件	11 件
自己血管 AVF 再建	7 件	3 件
自己血管 AVF 閉鎖	1 件	
自己血管 AVF 分枝結紮		1 件
血腫除去	1 件	
内シャント血管造影	21 件	
内シャント PTA	16 件	14 件

代謝・内分泌領域	H26	H27
糖尿病教育入院	110	90

循環器内科領域	H26	H27
心臓 MRI	11	25
冠動脈 CT	168	116
心臓カテーテル検査	269	221
経皮的冠動脈形成術	63	118
経皮的末梢動脈形成術	0	14
恒久的ペースメーカー植込術	21	12
ジェネレーター交換	11	23
急性心筋梗塞	10	26

消化器内科領域	H26	H27
C型肝炎-肝硬変に対するインターフェロン療法 (26年)	18	—
C型肝炎-肝硬変 (遺伝子型 I 型) に対する経口ウイルス治療薬投与 (27年)	—	21
C型肝炎-肝硬変 (遺伝子型 II 型) に対する経口ウイルス治療薬投与 (27年)	—	4
B型肝炎-肝硬変に対する経口ウイルス治療薬投与 (2年間)	—	34
内視鏡的食道静脈瘤結紮術 (2年間)	3	—
腹部血管造影	16	—
肝動脈塞栓術 (動注化学療法を含む)	16	11
消化器癌 (肝癌以外) 化学療法	17	15

血液内科領域	H26	H27
---------------	-----	-----

悪性リンパ腫	37	39
骨髄異型性症候群	17	17
多発性骨髄腫	14	9
急性骨髄性白血病	9	8
急性リンパ性白血病	4	4
自己免疫性溶血性貧血	3	1
特発性血小板減少性紫斑病	7	2
その他血液疾患	22	12

2. 総合外科・消化器外科

外科部長 曾我直弘

2015年は4月に常勤医3人より5人体制へ増員となりました。2015年の手術症例は327例で、ここ10年で最も多い手術症例となりました。新しく赴任した山根医師を中心に腹腔鏡下ヘルニア根治術（TEP）の導入も行いました。腹腔鏡手術は98例と全体の約1/3を占める状況です。定期手術においては予期せぬ合併症で死亡する症例は発生していません。藤田医師は消化器外科学会専門医を取得できました。

昨今、腹腔鏡治療を含めた外科医療過誤が問題になっています。新しい技術の導入や施行は医療の発展に不可欠な要素ではありますが、地域医療の担い手としては確実、根治性の高い安全な手術が最も肝要ではないかと考えています、本当に患者さんのためになるのか、低侵襲なのか、しっかりと検討すべき問題です。また日常診療、毎日の回診、患者さんをしっかりと診ていくことが、合併症、偶発症を未然に防いでいく第一歩ではないかと改めて拳拳服膺する次第です。

疾病・術式・検査名		(件)	
		H26	H27
胃、十二指腸		37	42
胃癌	幽門側胃切除	13	11
胃癌	胃全摘術	11	10
胃癌	噴門側胃切除術	2	3
胃癌	内視鏡的粘膜下層剥離術	9	11
胃癌	腹腔鏡補助下幽門側胃部分切除術	0	1
胃癌	試験開腹	0	1
十二指腸狭窄	バイパス術	2	2
十二指腸潰瘍穿孔	腹腔鏡補助下縫合閉鎖術	0	2
十二指腸潰瘍穿孔	開腹単純閉鎖術	0	1
小腸		11	15
腸閉塞	腹腔鏡下イレウス解除術	2	1
腸閉塞	イレウス解除術（腸管切除あり）	5	4
腸閉塞	イレウス解除術（腸管切除なし）	3	8
腸閉塞	バイパス術	0	1
メッケル憩室炎	腹腔鏡補助下切除術	1	0
小腸穿孔	小腸部分切除術	0	1

大腸		48	62
結腸癌	開腹結腸切除術	22	27
結腸癌	腹腔鏡補助下結腸切除術	10	15
直腸癌	開腹直腸切除術	7	7
直腸癌	腹腔鏡補助下直腸切除術	1	3
直腸良性腫瘍	経肛門の腫瘍切除術	1	0
大腸穿孔	結腸切除術	3	3
S状結腸捻転症	結腸切除術	2	0
S状結腸憩室出血	結腸切除術	0	1
人工肛門造設術後	人工肛門閉鎖術	1	3
大腸閉塞	人工肛門造設術	0	3
外傷性結腸間膜損傷	結腸切除術	1	0
胆嚢		50	51
胆嚢結石症（胆嚢炎）	腹腔鏡下胆嚢摘出術	39	45
胆嚢結石症（胆嚢炎）	開腹胆嚢摘出術	4	0
胆嚢ポリープ	腹腔鏡下胆嚢摘出術	4	1
胆管結石症	開腹胆嚢摘出術＋胆管切石術	1	3
胆管狭窄	胆嚢外瘻造設術	1	1
胆嚢癌	拡大胆嚢摘出術	1	1
膵、膵頭部領域、脾臓、胆管		7	5
乳頭部癌及び下部胆管癌	亜全胃温存膵頭十二指腸切除術	5	0
乳頭部癌及び膵頭部癌	亜全胃温存膵頭十二指腸切除術	0	2
膵管内乳頭粘液性腺癌	膵全的術	1	0
膵体部癌	試験開腹術	1	0
膵体部癌	膵体尾部切除術	0	2
脾嚢胞	腹腔鏡下天蓋切除術	0	1
肝臓		6	3
原発性及び転移性肝臓癌	肝切除術	5	3
感染性肝嚢胞	嚢胞切除開窓術	1	0
乳腺		9	16
乳癌	乳房切除＋リンパ節郭清	4	13

乳癌	乳房部分切除+リンパ節郭清	3	1
乳腺腫瘍	腫瘤摘出術	2	2
虫垂		28	24
急性虫垂炎	開腹虫垂切除術	4	4
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	24	19
急性虫垂炎	開腹盲腸切除術	0	1
ヘルニア		59	59
鼠径ヘルニア	前方アプローチによる根治術	51	44
鼠径ヘルニア	T E P法またはT A P法	0	12
大腿ヘルニア	根治術	3	3
閉鎖孔ヘルニア	根治術	1	0
腹壁癒痕ヘルニア	根治術	2	0
白線ヘルニア	根治術	1	0
臍ヘルニア	根治術	1	0
肛門		8	10
痔核	結紮切除術	4	5
痔瘻	根治術	0	3
痔瘻	瘻孔切除術	1	0
肛門周囲膿瘍	切開排膿術	2	2
肛門狭窄	S S G法	1	0
甲状腺		4	20
甲状腺腫瘍	全摘術	1	12
甲状腺腫瘍	右または左葉切除術	3	5
甲状腺腫瘍	リンパ節郭清	0	1
副甲状腺機能亢進症	摘出術	0	2
体表		16	11
皮下埋め込み型カテーテル挿入術		9	8
体表腫瘍	腫瘤摘出術または切開排膿	3	2
リンパ節腫脹	リンパ節生検	4	1

腹部その他	5	9
合計	288	327

3. 小児科

小児科部長 恩田真弓

小児科の特徴である急性呼吸器感染症、消化器感染症が外来の多数を占めていました。ロタウィルスワクチンが開始されロタウィルス胃腸炎の減少が期待されましたが、2015年の冬は明らかに減少し。同疾患に伴う脱水症、痙攣発作などで入院する例は大幅に減少しています。2015年の秋から2016年の春にかけてInfluenzaがまた流行しました。当科では幸い脳症など重篤な合併症をきたした患児はいませんでした。今シーズンの特徴として、流行初めからB型が流行していました。

今シーズンは、春から手足口病、ヘルパンギーナが全国的に大流行しました。例年に比べ発疹が強く範囲が広がったのが印象的でした。

予防接種では、1回に接種出来る種類が増え、インターバルも変更になるなど多少混乱が続きましたが順調に接種出来ています。2014年から水痘が定期接種になり、2度接種になりました。2度接種になるに従い感染数は減少しました。

子宮頸癌予防ワクチンが開始され、筋肉内接種のため疼痛が強いのは予想されておりましたが、全国的に複合性局所疼痛症候群の発生が問題となり、一時的に接種が見合わされました。860万接種に1回程度発生すると言われていきます。当科でも多数の女性に接種いたしました。やはり痛いと訴える女児は多かったですが、幸い同症候群をきたした例は認めませんでした。現在接種可能となっていますが今年度接種者もほとんどいませんでした。

インフルエンザワクチンは積極的に奨励していますが、まだまだ接種する方が少なく残念です。1歳未満の赤ちゃん、高齢者、受験生のいるご家族などは家族ぐるみでの接種をしていただきたいものです。

B型肝炎ワクチンは定期接種になりましたが、対象年齢から漏れる方にも接種していただくよう指導しています。

アレルギー性疾患は、喘息をはじめ罹患児は多数来院されます。近年抗アレルギー剤の進歩に伴って喘息のコントロールは良好な経過をたどるようになりました。今年も重症の発作をきたした例は当院では有りませんでした。

2012年より筑波メディカルセンター病院小児科のT-PAN(筑波小児アレルギーネットワーク)に参加し、アレルギー疾患でメディカルセンター小児科とも連携し診療にあたっています。

2016年の春から林大輔医師が常勤で入職しました。

予防接種	(件)	
	H26	H27
BCG	91	95
B型肝炎	179	360
アクトヒブR (インフルエンザ桿菌)	39	75
ムンプス (流行性耳下腺炎：おたふく風邪)	34	42
水痘 (水ぼうそう)	106	227
MR (麻疹、風疹)	196	0
インフルエンザ	779	658
二種混合	36	54
三種混合	57	1
日本脳炎	325	335
子宮頸がん	0	0
肺炎球菌	44	73
合 計	1,886	1,920
乳児健診	169	170

4. 内視鏡科

術式・検査名		(件)	
		H26	H27
内視鏡	上部消化管（人間ドックを含む）	3,262	3,365
内視鏡	下部消化管（人間ドックを含む）	843	983
内視鏡	膵胆管造影（内視鏡的十二指腸乳頭切開術を含む）	46	39
経皮的内視鏡的胃瘻造設術		18	34
合 計		4,169	4,421

5. 脳神経外科

副院長・脳神経外科部長 竹下 幹彦

当院の脳神経外科は、頭部外傷、くも膜下出血や脳内出血、脳梗塞などの脳血管障害や脳腫瘍の診断・治療を行っております。脳内血腫に対し血腫除去術を、破裂動脈瘤に対し開頭によるクリッピング術や血管内治療(コイル充填術)も行っております。未破裂脳動脈瘤で手術適応のある方には同様の治療も行っております。また、発症 4.5 時間以内の脳梗塞患者さんには、t-PA による積極的な治療およびその後の脳梗塞に対する治療と共に、適応のある患者さんには脳主幹動脈閉塞による脳梗塞急性期患者の血管内治療(血栓回収術)も行っております。脳卒中後等の片麻痺や失語症に対するリハビリテーションを行うと共に、茨城県南地域脳卒中連携パスの運用も行っております。また、適応のある患者さんには頸部内頸動脈狭窄症に対する血管内治療(ステント留置術)や慢性脳虚血患者に対する浅側頭動脈—中大脳動脈吻合術も行っております。

(件)

術式・検査名	H26	H27
脳腫瘍		
開頭摘出術	11	8
経蝶形骨洞手術	0	1
脳血管障害		
破裂脳動脈瘤	16(*2)	13(*2)
未破裂脳動脈瘤	3	5(*1)
頸部内頸動脈ステント留置術	3	0
脳動静脈奇形	2	2
高血圧性脳内出血	19	21
血栓溶解術	*1	*2
外傷		
急性硬膜外血腫	3	3
急性硬膜下血腫	9	3
慢性硬膜下血腫	40	48
水頭症		
脳室シャント術	9	9
脳神経減圧術	0	0
その他	21	23
合 計	137	138

(*血管内手術)

6. 整形外科

副院長・整形外科部長 梅原 新英

2014年は500件、2015年は451件の手術を行いました。非常勤医の交替により手術の内容は変化しました。『足の外科外来』が終了となったため足の手術は減少しましたが、代わりに肩関節手術と膝関節手術が増加しています。今後も骨折など外傷に対する治療が主体となりますが、専門外来として『股関節外来』、『脊椎外来』、『膝関節外来』、『肩関節外来』、『スポーツ整形外科』を開いており、整形外科の幅広い分野に対応していきます。

術式		(件)	
		H26	H27
外傷			
四肢・骨盤骨折	骨折観血的手術、関節内骨折観血的手術	225	197
四肢・骨盤骨折	人工骨頭挿入術	23	38
偽関節手術		1	4
変形治癒骨折矯正手術		0	1
関節脱臼	観血的整復術	16	6
関節脱臼	非観血的整復術	16	8
開放骨折・挫創など	デブリードマン、縫合	3	6
腱断裂（アキレス腱断裂含む）	腱縫合術、腱移行術	12	6
関節手術			
膝半月板損傷	半月板切除術・縫合術（関節鏡視下）	1	12
膝前十字靭帯損傷	靭帯形成術（関節鏡視下）	0	1
関節内遊離体（膝、肘、足関節）	関節鼠摘出術（関節鏡視下）	1	2
膝関節炎など	滑膜切除術（関節鏡視下）	0	1
変形性肩関節症、リウマチ性肩関節症	人工肩関節置換術	1	2
肩腱板断裂手術（関節鏡視下）		1	5
変形性股関節症	関節形成術	1	0
変形性股関節症	人工股関節置換術、再置換術	21	15
変形性股関節症	寛骨臼回転骨切り術	2	2
リウマチ性股関節症	人工股関節置換術、再置換術	2	2
大腿骨頭壊死症	人工股関節置換術、再置換術	2	0
変形性膝関節症	人工膝関節置換術、再置換術	1	11
変形性膝関節症	高位脛骨骨切り術		3

リウマチ性足部変形	関節固定術など	3	
変形性足関節症など	関節固定術、骨切り術	6	2
外反母趾	矯正術	4	2
強剛母趾	関節形成術	0	1
脊椎手術			
頸椎症性脊髄症、頸椎椎間板ヘルニア、頸髄損傷など	椎弓形成術	9	7
環軸椎脱臼など	脊椎固定術	0	2
環軸椎脱臼・骨折	体外式脊椎固定術	4	1
腰部脊柱管狭窄症	椎弓切除術	13	8
腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離じり症など	脊椎固定術	5	2
腰椎椎間板ヘルニア	椎間板切除術（鏡視下含む）	10	4
その他			
尖足	腱延長術	1	0
軟部腫瘍、ガングリオン、滑液包	摘出術	1	2
ばね指、ドゥケルバン病	腱鞘切開術	18	15
肘部管症候群	神経移行術	1	1
手根管症候群	手根管開放術	7	3
閉塞性動脈硬化症、糖尿病性壊疽など	切断術、断端形成術	11	17
骨折手術後など	骨内異物除去術	65	48
その他		13	14
合 計		500	451

7. 形成外科

形成外科部長 高橋 元，形成外科医長 山本 改
形成外科一般を対象。創傷治癒の観点で傷をきれいにする事を心がけています。

術式・検査名	(件)	
	H26	H27
腱縫合術（切創等の創傷により）	2	1
瘢痕拘縮形成手術（顔面）	5	1
瘢痕拘縮形成手術（その他）	0	2
分層植皮術（25点以上100点未満）	2	1
分層植皮術（100点以上200点未満）	1	0
分層植皮術（200点以上）	3	1
鼻骨骨折整復固定術	17	12
皮弁作成術・移動術・切断術・遷延皮弁術（25点未満）	9	5
皮膚切開術（長径10cm未満）	73	45
皮膚切開術（長径10cm以上20cm未満）	5	4
皮膚切開術（20cm以上）	0	1
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	19	16
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術（露出部）（長径3cm未満）	11	13
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	1	0
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上）	5	11
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	46	41
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上，6cm未満）	26	56
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	8	6
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	122	82
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上，4cm未満）	41	72
動脈（皮）弁術	5	1
四肢切断術（指）	1	2
断端形成術（指）	1	1
爪甲除去術	13	15
創傷処理（長径5cm以上10cm未満 筋肉，臓器に達するもの）	15	7
創傷処理（筋肉，臓器に達するもの（長径5cm未満））	23	27
創傷処理（筋肉，臓器に達するもの（長径10cm以上））	8	4
創傷処理（筋肉，臓器に達しないもの（長径5cm未満））	96	37
創傷処理（筋肉，臓器に達しないもの（長径5cm以上10cm未満））	18	8

創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径 5cm 以上））	7	0
全層植皮術（25 点未満）	5	2
全層植皮術（25 点以上 100 点未満）	1	5
先天性耳瘻管摘出術	1	2
神経縫合術（指）（手）	2	4
神経腫切除術（指）（足）	2	0
小児創傷処理（6 歳未満）（筋肉、臓器に達しないもの（長径 2.5cm 以上 5cm 未満））	2	2
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	1	1
耳介腫瘍摘出術	7	0
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	25	27
骨折観血的手術（指）	1	1
骨腫瘍切除術	2	0
頬骨骨折観血的整復術	1	1
鶏眼・胼胝切除術（露出部で縫合を伴うもの）（長径 2 c m 未満）	5	0
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	12	4
眼瞼下垂症手術（その他のもの）	3	9
陥入爪手術（爪床爪母の形成を伴う複雑なもの）	1	1
陥入爪手術（簡単なもの）	30	32
ヘルニア手術（臍ヘルニア）	1	0
デブリードマン	14	7
ガングリオン摘出術	3	6
レーザー	6	3
尿膜管嚢胞	1	0
副耳切除術	2	1
血管縫合術	0	2
腋臭症手術	0	2
眼窩骨折観血的手術	0	2
眼瞼内反症手術	0	2
異物摘出術	0	1
大伏在静脈拔去術	0	22
乳腺腫瘍摘出術	0	2
毛巣洞	0	2
合 計	711	615

8. 泌尿器科

特任副院長・泌尿器科部長 松木 克之

当科は尿路（腎臓・尿管・膀胱・尿道）と男性性器（前立腺・精嚢腺・精管・精巣上体・精巣）副腎等の感染症・外傷・先天性疾患・結石・尿路閉塞疾患・悪性腫瘍を主に対象として診療しております。

術式・検査名	(件)	
	H26	H27
腎瘻造設	2	0
尿管拡張	3	0
尿管カテーテル	7	0
尿管ステント留置	15	2
膀胱部分摘出	0	1
TUR-Bt	17	7
経尿道膀胱碎石 / 開腹	2/0	1/0
膀胱瘻造設	3	1
TUR-P/HoLEP	6/0	0/0
前立腺生検	41	15
尿道狭窄内視鏡手術	0	1
陰嚢水腫	2	1
合 計	98	29

9. 皮膚科

皮膚科医長 田中 未知

当院皮膚科では、常勤医師1名、非常勤医師4名（水曜日午後は筑波大学医学医療系皮膚科 藤本学教授）で診療を行っています。皮膚科一般診療を中心として、他に脱毛のレーザー治療、局所麻酔下の小手術、円形脱毛症のSADBE治療などが可能です。

当科は基本的に筑波大学の下部組織であり、急性期の重症患者の入院は大学病院に依頼し、慢性期の転院を受け入れる形式をとっています。

術式・検査名	(件)	
	H26	H27
レーザー脱毛	39	31
デブリードマン（100点未満）	161	104
陥入爪手術（簡単なもの）	51	52
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm未満））	4	3
皮膚，皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	3	2
皮膚，皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上，6cm未満）	0	0
皮膚，皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	2	1
皮膚切開術（長径10cm未満）	38	46
合 計	298	239

10. 眼科

眼科医長 矢部美香子

外来にて眼科疾患全般を診ています。よりスムーズな外来に努め、できるだけ多くの手術治療が行えるよう力を注いでいます。

また、今後も関連病院との連携を強め、地域医療の役に立てるよう出来るだけ精進していきたいと思っています。

疾患および術式	(件)	
	H26	H27
白内障：超音波乳化吸引術＋眼内レンズ挿入術	341	316
白内障：超音波乳化吸引術＋眼内レンズ挿入術＋前部硝子体切除術	4	0
白内障：囊外摘出術＋眼内レンズ挿入術	1	0
白内障：超音波乳化吸引術	1	0
眼内レンズ亜脱臼：眼内レンズ摘出＋眼内レンズ強膜内固定	1	1
無水晶体眼：眼内レンズ強膜内固定	0	1
無水晶体眼：眼内レンズ2時挿入	1	0
硝子体切除術＋超音波乳化吸引術＋眼内レンズ挿入術	8	1
糖尿病網膜症＋硝子体出血：硝子体切除術	1	0
硝子体切除術	0	1
黄斑上膜＋白内障：硝子体切除術＋超音波乳化吸引術＋眼内レンズ挿入術	2	1
眼瞼内反症	5	4
翼状片	9	6
上眼瞼皮膚弛緩症	6	1
眼瞼腫瘤切除	0	2
合 計	380	334

11. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 山崎 善純

当科は、2015年10月より常勤医3名、非常勤医1名の体制で、診療しております。

主に、口腔外科的疾患（埋伏智歯、外傷、嚢胞、腫瘍、顎関節症、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、口腔感染症、口腔乾燥症、味覚障害、摂食嚥下障害など）を治療しております。ただし、有病者（障害のある方、重度の基礎疾患のある方）および入院中の方については、一般歯科治療も行っております。

また、当科は、開業医の先生とご一緒に、歯科口腔疾患の地域医療を担当すべく、2次医療機関（病院歯科口腔外科）としての役割分担を担える様に、病診連携を心がけております。

術式・検査	(件)	
	H26	H27
抜歯	7	8
頸部リンパ節生検	5	9
顎骨嚢胞摘出術	2	5
舌腫瘍（良性）	0	1
舌腫瘍（悪性）部分切除	2	0
頸部リンパ節郭清	1	0
口腔底腫瘍（悪性）部分切除	1	0
頬粘膜腫瘍（良性）	0	1
頬粘膜腫瘍（悪性）	0	2
上顎顎腫瘍（良性）	0	4
下顎腫瘍（良性）	2	2
口唇腫瘍（良性）	0	1
顎骨骨折	0	2
上顎洞異物除去	1	0
埋伏過上歯抜去	2	0
唾石症	0	1
下顎骨骨髓炎	0	1
インプラント埋入	0	1
骨内異物除去	0	1
合 計	23	39
入院症例	24	45
手術症例	23	40

全身麻醉	11	19
局所麻醉	12	21

12. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 伊藤 昭彦

現在、常勤医は2人と非常勤に数名で外来を行っています。手術は扁桃摘出術、鼓室形成術、鼻・副鼻腔手術、頸部手術を行っています。

悪性腫瘍は放射線治療ができないのと、常勤医の人数不足のためおこなっておらず他施設へご紹介しております。

突発性難聴、めまい、急性炎症の入院は随時行っています。

術式・検査名	(件)	
	H26	H27
扁桃周囲膿瘍切開術	1	4
鼓膜切開術	38	56
鼻内異物摘出術	3	3
鼻中隔矯正術	1	8
鼻甲介切除術（その他のもの）	0	9
咽頭異物摘出術	12	16
扁桃摘出術	22	9
副鼻腔手術	9	19
鼓室形成術	4	3
頸部手術	3	13
その他	48	124
合 計	141	264

1 3. 麻醉科

麻醉科部長 古謝 宏樹

	(件)	
術式・検査名	H26	H27
全身麻酔症例		
外科	245	273
整形外科	241	283
口腔外科	12	19
脳神経外科	81	75
泌尿器科	0	1
形成外科	50	61
耳鼻咽喉科	31	56
内分泌科	4	18
静脈麻酔症例		
泌尿器科	24	15
整形外科	4	2
脳神経外科	1	0
脊髄クモ膜下麻酔症例		
泌尿器科	35	9
形成外科	2	8
整形外科	12	5
外科	5	5
脊髄クモ膜下硬膜外併用麻酔症例		
整形外科	0	0
外科	0	0
伝達麻酔症例		
整形外科	2	1
合 計	749	831

14. 放射線科

当科では、主にCT、MRI、マンモグラフィー、上部下部消化管透視撮影、点滴静注腎盂尿路造影、その他依頼された一般撮影の画像診断を行っております。

平成26年は骨塩定量装置が導入され、腰椎及び大腿骨での測定が可能となり、より高い精度での解析が可能となりました。

平成27年には3.0テスラ及び1.5テスラのMRI装置が導入され、世界初のデジタルコイルシステムの搭載により微小な病変の検出も可能となりました。

※撮影件数は、画像診断センターページに掲載しております。

【導入装置】



Ingenia3.0T CX、Ingenia1.5T CX（フィリップス エレクトロニクス社製）
平成27年12月設置